

「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。」

世には、悲しみの好きな人は一人もいません。悲しみは、不幸の代名詞でもあります。

でもイエス様は言われます。「悲しむ者は幸いです。」なぜ、イエス様は「悲しむ者は幸いです。」と言われたのでしょうか？ それは「慰められるから」なのです。実は、本当の悲しみを知った人だけが、本当の慰めを経験することができるという事は本当なのです。

人生は高く、そして、深くなければなりません。

——— いろいろな悲しみ ———

さて、世にはいろいろの悲しみがあります。その悲しみの深さは測り知れません。例えば、人に理解されない悲しみ、捨てられ、忘れられた者の悲しみ、人から誤解され、わかってもらえない悲しみ、死に別れ、生き別れの悲しみ。それから、繰り返し罪を犯してしまう、そんな弱い自分に気が付いた時の悲しみ・・・。

でも、そんな中で、最も大きな悲しみを 2 つあげるならば、それは、①身近な者の死、そして②自分の罪の悲しみではないでしょうか？

——— ① 身近な者の死の悲しみ ———

ある友人が亡くなられた時、そのご主人の奥さんの所にたくさんの方々が弔問に駆けつけました。「ごしゅうしょうさまで・・・」「お慰めのことばありません」「あんまりお気を落としないように、お体にさわれますから・・・」慰めのことばが、次から次へと語られました。そんな時に、一人の方が、職場から作業着のままで駆け込んできました。その人は白いきれがかぶせられたご主人の亡骸のそばに座ると、ひと言も言わずに、ただ泣きじゃくりました。後（のち）に、その未亡人が言いました。「あの方の涙が、あの時の私を一番慰めてくれました。」

罪を持っている人間は悲しい存在です。その人間の悲しみの深さは、哲学でも詩でも表現できません。ですから、詩でも哲学でも人間の悲しみは慰められません。

皆さん、皆さんの人生の中で、一番辛い時、悲しい時に、共に泣いてくれる人がいる人が身近にいらっしゃたら幸いですね。

皆さんには、その様な人がおられますか？

私たちが本当に悲しい時、辛い時、共に泣いて、共に涙して、共に悲しんで、共に苦しんで、共に生きてくれる人がいたらと心から願います。

——— 弟ラザロを失くしたマリア、マルタ ———

弟ラザロを失くしたマリアとマルタのお話です。ラザロを失ったそんな二人の前に現れた、イエス様はどの様にして二人を慰めたのでしょうか？

聖書には次の様に書かれています。(ヨハネ 11:35 節)「**イエスは 涙を流された。**」

同じように、イエス様は私たちの人生の最も深い悲しみに対しても、涙を持って答えてくださいます。いいえ、涙どころかイエス様は血汐を流して下さって、悲しみに応えてくださるのです。

このイエス様から心底、慰めていただける人は幸いです。皆さんも、辛い時そのままイエス様の所に行きませんか？ 共に泣いてくださるお方がおられるのです。

そんな、イエス様からあなたへの招きのことばです。

(マタイ 11:28 節)「すべて疲れた人、重荷を負っている人は わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」

悲しみを背負って、みもとに来られた人々を、主は誰でも慰めて下さいます。

「悲しむ者はさいわいです。その人たちは慰められるからです。」(5:4 節)

——— ② 罪から来る悲しみ ———

さて、それにしても、人間は悲しみの動物といわれています。人生の中で味わう悲しみは測り知れません。そんなたくさんの悲しみの中で、最も深い悲しみ(うめき)は、犯した罪を悲しむ、悲しみではないでしょうか？

ある宣教師から、その国であった、こんな話を聞きました。

一人のコックさんが、食べ物を盗みによくやってくる猫に腹を立て、捕まえてかまどの火の中に放り込んで殺しました。それ以来 彼は毎日毎日毎日うなされて苦しみ、もだえ、うめき続けました彼はやがて、そのことを申し出て動物虐待罪の刑を受けた後に、やっと平安を取り戻したとのことでした。

以前、人を殺して庭に埋めた人の事をお話しました。完全犯罪でした。しかし、時効の迫って来たある日、とうとう苦しみに耐えかねて彼は自首したのです。すべてを吐いて告白して、やっとその方は平安を取り戻して、夜眠ることができたのした。

—— ユダの道 ——

でもなかには、悔い改めることの出来なかった人もいます。あのイスカリオテ・ユダがそうでした。イスカリオテ・ユダは罪のないイエス様を銀貨 30 枚で敵の手に売り渡しました。

しかし、イエス様が十字架に掛けられたのを見たユダは銀貨を神殿に投げ捨てました。

それでも、心のうめきはおさまりません。とうとう彼は悲しみもだえ、苦しんだあげく首をくくって死にました。

イスカリオテ・ユダは、このうめきを持って真っすぐにイエス様の所へ行くべきでした。罪を悔いて、その心の悲しみをイエス様の所へ持って行くべきでした。しかし、しませんでした。

—— ペテロの道 ——

その全く反対の道を歩んだのがペテロでした。彼も 3 度、イエス様を否む罪を犯しました。しかし彼は、主から見つめられた時、自らの罪を自覚しました。聖書は、次の様に記しています。ペテロは「・・外に出て行って、激しく泣いた。」（ルカ 22:62 節）彼は、心から悔い改めたのです。そして、イエス様からの慰めと、罪の赦しをいただいたのです。

繰り返しますが、人間の最も深い悲しみは、犯した罪を悔やむ悲しみです。この悲しみは、どんな人の慰めのことばも、いやすことは出来ません。ただその罪を赦し、その罪を聖めるために、あなたと私の代わりに死んで下さったイエス様の血、イエス様の愛、イエス様の涙だけが、本当の慰めを与えてくれるのです。

——— 永遠の慰め ———

ですから罪を心から「悲しむ者は幸いです。」なぜなら、神様からの赦しと、聖めと慰めを受け、そして魂が天国へと、はばたくことが出来るからです。それは神様からの永遠の慰めなのです。天国にいるすべての人は罪許された者たちです。

イエス様から、罪に苦しみ悲しんでいる者たちへの慰めのことばです。

（黙示録 21:3、4 節）「見よ、神の幕屋が人々とともにある。

神は人々とともに住み、人々は神の民となる

神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

神は彼らの目から 涙をことごとくぬぐい取ってくださる。

もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。

以前のものが過ぎ去ったからである。」

ですから「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。」（5:4 節）

（証）私がまだ小学生の頃、病気になるのが好きでした。と言っても風邪位のものですが、なぜかという、熱が出て寝込んでいると、母を独占できるからです。おかゆをつくってくれたり、好きな物が食べられたり、本を買ってくれたりするのです。特に小学三年生など、付録がたくさん付いている雑誌を買ってきてくれます。至れり尽くせりです。だから、ウキウキして寝込んでいます。本当は注射を打たれて痛いはずなのに、学校を休んで悲しいはずなのに・・。それは、その時だけわがままができて、母からの暖かな慰めをいただけるからだと思います。子供の頃の思い出です。

それにしても、慰めてくれる人がいるって、すごいことですね。最高です。でもそれは不幸にならないと味わえません。人生、悲しいこと、辛いこと、思うようにいかない事、たくさんあります。でもイエス様は、どんな時でもそんなあなたと歩んでくださいます。

私たちが、本当に苦しい時、辛い時、悲しい時に、本当の友が現れます。そして、お釣りが来るくらい、大きな宝物をいただけます。だから、悲しみはなくてはならぬものなのです。

米国に「足跡」という美しい詩があります。

「それは美しい浜辺でした。この世のものとは思えない美しい浜辺。そこに二人の足跡がついています。一つは、私が神様と信じるイエス・キリストの足跡。もう一つは、私の足跡でした。

それをずっと見ていくと、人生が走馬灯のように思い起こされます。しかし、よく見ると、ところどころ、一人分の足跡しかありません。ああ、あのときは受験に失敗したときだ。ああ、あのときは失恋して悲しかったときだ。ああ、あのときは事業で失敗したときだ。そういう苦しかったときに限って、一人分の足跡。そこで私は言いました。

「神様、私があなたを信じたときから、どんなときにも私を見捨てない、見放さない、共にいるとおっしゃったのに、あのときは私を見放したのですか」

すると、神様は私におっしゃいました。

「我が子よ。わたしはあなたを決して見放したり、ひとりっぽっちにはしない。一人分しかないその足跡は、おまえの足跡じゃないよ。わたしの足跡なんだ。あのとき、お前はわたしの背中に背負われていたのだよ。」

私たちが苦しければ苦しいほど、悲しければ悲しいほど、主は共にいてくださいます。共に生きてくださいます。共に苦しみ、悲しんでくださいます。

また、私たちが苦しみを味わう事、悲しみを味わう事は絶対に必要です。そのことによって、苦しみがわかり、友の悲しみを理解することが出来るようになります。そして、友と共に苦しみ、友と共に悲しむことが出来るのです。友を慰めることばを持つことができるのです。そしてわたしも、苦しんでいる人、悲しんでいる人の本当の友になる事が出来るのです。

主は、私たちの友になって下さいました。

聖書のことば。「悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。」

マタイ 5 章 4 節